中郷中学校だより
躍　進
学校HP：https://www.nakago-j.jorne.ed.jp/otayori/



紅葉のすすむ妙高山

令和８年11月16日

中　郷　の　秋

校長　田口　秀行

食欲の秋、スポーツの秋、行楽の秋…。「秋」は様々な顔をもつ特別な季節です。自然豊かな中郷中では、日に日に赤みを増す木々の移ろいを確かめながら、生徒は落ち着いて学習に取り組んでいます。昼休み、図書室では、本の貸出業務をしながら図書委員が本を読み、図書館前では、Study コーナーで自主学習をする生徒の姿もみられます。



読書する図書委員



Study コーナーで学習する生徒

一般的に、知的探求の源は「えっ？」「なるほど！」などの驚きを意味するギリシャ語の「タウマゼイン」にあるとされています。そこから生まれる好奇心によって人は学び始めると考えられてきました。

しかし、安易に好奇心を学びの始まりとしてはいけないと考える人もいます。昨今のＡＩを用いた情報流出のように、好奇心のみに基づく探究の結果、社会に計り知れない悪影響を及ぼしてしまう学びもあるからです。

哲学者の今道友信によれば「タウマゼイン」の「タウマ」とはもともと「賞賛」や「賛美」を意味していたそうです。したがって、「タウマゼイン」はただの驚きではなく、「素敵だ」や「あのようになりたい」という憧れを伴うものだと指摘します。

さて、学びの手段としてすぐに思いつくのは「読書」です。詩人の長田　弘さんは、本を読むことは文字を読み取るだけでなく、自然や生命の中にある様々な変化を感じ取り、それらを称えることだと伝えています。

四季折々の自然や人々の優しさに囲まれた中郷には優れた「本」が豊富にそろっています。中郷で学ぶ子どもらは、地域そのものが賛美と驚きを伴う「学びのふるさと」であることにいずれ気付くことでしょう。

「読書の秋、もっと本を読みましょう！」
そう呼びかける図書委員の声が聞こえてきそうです。

世界は一冊の本

長田　弘

本を読もう。
もっと本を読もう。
もっともっと本を読もう。

書かれた文字だけが本ではない。
日の光、星の輝き、鳥の声、
川の音だって、本なのだ。

ブナの林の静けさも
ハナミズキの白い花々も、
大きな孤独なケヤキの木も、本だ。

本でないものはない。
世界というのは開かれた本で、
その本は見えない言葉で書かれている。

…中略…

人生という本を、人は胸に抱いている。
一個の人間は一冊の本なのだ。
記憶をなくした老人の表情も、本だ。

…中略…

本を読もう。
もっと本を読もう。
もっともっと本を読もう。

令和8年度　中郷中学校　合唱祭スローガン

一唱入魂 ～ 響け！52人の青春ハーモニー ～



全校合唱［ふるさと］の様子

１０月27日（木）気持ちの良い秋晴れの下、中郷中学校の音楽祭を開催しました。当日は今年度の学校行事のなかで最も多くの方々からおいでいただき、中学生の合唱や小中学生による合同合唱をお聞きいただきました。多くの方から足を運んでいただいたことで、生徒は、胸を張って体育館に響き渡る歌声を届けました。ご来場の皆様からは、あたたかなまなざしや盛大な拍手、心のこもった感想など多くのものをいただき、感謝申し上げます。

［ご来場いただいた皆様からの感想］

○息子と娘が重なる最後の機会ということもあり、感慨深いものがありました。私の母も在りし日の私を思いだし感動しておりました。ありがとうございました。

○年々少なくなる生徒数で合唱をすることが難しいと思いますが、１人１人が一生懸命歌っている姿を見て、感動しました。今後も生徒数減少に負けない合唱を楽しみにしています。

○少ない人数で、みんな一生懸命歌っていて、感動しました。ピアノや指揮も、みんな上手でした。見に行って良かったです。作品展示も、素敵に飾ってくださり、ありがとうございました。

○各学年、それぞれの良さが見られ、感動しました。パートがきれいにハモることもですが、それ以上に、観客がたくさんいる前で、緊張しながらも、恥ずかしさがあっても、ステージに立つということができたということが、素晴らしいことだなと思いました。生徒数が減る中、先生方がアイデアを出しながら合唱祭を続けてくださっていることに感謝いたします。スポーツだけてはなく、音楽的行事も大切にしつづける中郷小学校・中学校であって欲しいなと願います。素敵な時間をありがとうございました。